

## 第6回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日時 令和3年5月19日（水）午前10時～11時40分
- 2 場所 市役所本庁舎7階 全員協議会室
- 3 出席者 (1) 委員（Web会議1名）  
柳委員長、福山副委員長、飯野委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員  
(2) 事務局  
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、平田政策企画課課長補佐

### 4 内容

#### ●委員長挨拶

前回、防災・減災機能をベーシックな機能として5つの機能に絞った。本日は、今後の進め方をみなさんと共有したい。市報では、「機能を5つに絞り込んだ」と情報提供していただいている。第11次鳥取市総合計画も策定され重点施策に従って、跡地活用を考えていきたい。今日もよろしくお願したい。

#### ●委員からの主な意見

- 委員 手順・工程表のスピード感やタイミング、期間について、意見・質問等はあるか。
- 委員 WSを行い、その後の第7回専門家委員会で活用を絞り込むと書いてある。WSとアンケートの位置付けは。
- 事務局 WSとアンケートの違いについて。昨年度も同じようにWSを行い、その後、アンケート調査を行った。今年度も基本的な考え方は昨年度と同様で考えている。WSでは意見をいただき意見をまとめていただきたい。アンケート調査は2000人を対象に行う。定量的な部分も考慮しながら、活用を絞り込む要素としたい。
- 事務局 補足する。昨年度WSを行いたくさんの意見が出た。それを12の機能に絞り込んだと思う。今年もWSで活用策がいくつか出ると思うので、それを第7回専門家委員会で昨年12の機能に絞り込んだようにいくつかに絞り込む。それをアンケートで計らしていただくことを考えている。
- 委員 前は機能についてアンケート調査した。今回は跡地活用について絞り込んだアンケートになるという理解でいいか。
- 事務局 お見込みのとおり。
- 委員 議会へは報告か、それとも審議か。
- 事務局 議会に報告をする。そこで意見をいただき、それをもとに鳥取市で結論を出す流れ。
- 委員 議会の意見が行程表に与える影響はどの程度か。報告事項ではなく、議会で審議され手順に組み込むと議会の意見がかなり影響するようになるがいかかか。
- 事務局 基本的には、この専門家委員会の意見で進める。議会の方には報告をするスタンスであるが、議会でもその都度その都度意見が出ると思うので、場合によってはその意見を取り入れることもあると思う。その時は、また専門家委員会に話した上で進めたいと思う。
- 委員 他に意見はあるか。
- 委員 第7回専門家委員会の議題が活用策の絞り込みとアンケート内容の協議となっている。この2つの論点を2時間で消化し切れるか若干気になる。進行の工夫をお願いしたい。
- 委員 少し気になる点がある。この作業の進め方も関わるが、この専門家委員会が出した結論が鳥取市の示す一定の方向性と理解してよいのか。通常のように行政側からも腹案ないしはアイデアが提示され、それに対し市民はどう考えたかなど、様々な意見や選択肢が提示される中で合意形成が図られていくと想像していた部分がある。しかしこれまでのところ鳥取市

側から総合的に考えた活用策は1度も出ていない。もちろん、この専門家委員会の意見が鳥取市の意見ですというやり方もあると思うが、どう考えているのか。

■事務局

この専門家委員会でいただいた意見を報告書のような取りまとめをしていただくことになると思う。それは専門家委員会の意見ということになる。それをいただいた上で、市の意見、方針を出したいということ。これは例え話であるが、極端な話、複数の案でまとめていただいてそれを市が最終的に結論を出すこともあるかもしれない。ただみなさまの意見を最大限尊重したいと思う。そしてみなさまの意見のもとになっているのは市民の意見である。まず、市民の方、専門家委員会の意見をいただいた上で、市としての一定の方向性を示す。委員が言われるように、最初から市から腹案を出す方法もあると思うが、今回は、まずみなさまの意見を伺って、その中から活用策を絞り込み、決定するという手順を踏み進めている。

○委員

市としてどんでん返しは無いと理解してよしいですね。そのうえで質問する。第7回専門家委員会で絞り込みをするときに、跡地活用の費用面や他都市の例、都市機能の集積状況等の情報をもとに活用策を絞り込むと書いてある。これらの情報は、WSのとき市民のみなさまが考える判断材料として提示する必要があるのかどうか、他の委員はどう思われるか。後から情報が出てきて判断するというより市民のみなさんも全く同じ情報で判断する機会を提供する必要はないのか。

○委員

WSのときにどういう情報提供するのは次の議題で議論する。

○委員

第7回専門家委員会で絞り込むとある。以前、求められる機能を絞り込んだのは、ほぼ網羅的にあった大きな機能を絞り込み漏れている機能は多分なかった。市民の意見が反映されているものを拾ったという認識である。WSの意見が全部ではないし、統計的にもそれが優位になるものではない一部の意見である。それを絞り込むのはこの専門家委員会の仕事ではない気がする。WSは活用策について多くの意見が集まってくるが、専門家委員会はそれぞれの委員がそれぞれの専門の視点で、例えば足りてないところとか、補足すべきところとか、勘違いしているところとか、そういうところを眺めてみて、アンケートをするのかどうかも含めて、その内容を吟味するイメージでいいか。絞り込むというよりは、活用策の幅を削ることはないかもしれないが、ここで補足したり、リストを整えるみたいなイメージでいいか。

■事務局

言われることはよくわかった。第7回専門家委員会の上に活用策を絞り込む、アンケート内容を協議とある。今、言われたことからすると、例えば専門の立場・視点でアンケートの内容を協議という1つにくくれると思うがいかがか。

○委員

そのとおり。活用を整理して一定の方向性を示すということ。絞り込むのではなく整理をして一定の方向性を考えようというのがこの趣旨。スピード感はどうか。

○委員

スピード感はこれぐらいだと思う。

○委員

スピード感とか、この流れで議論を進めるなど意見があるか。

○委員

WSの意見を絞り込むというより整理するという。専門家委員会でも案を作る。それについて検討していただくのはどうか。

■事務局

新たな提案であった。他の委員の意見はいかが。市はみなさまの意見としてそれがいいということであれば差し支えない、

○委員

委員が、次回2時間で大丈夫かと言われた意図はそこにあったと判断した。我々一人一人も、何らかの形で意見が提示できるような形にしようと思うと、次回2時間では難しいのではないか。

○委員

2つの論点だと2時間では厳しいと感じた。WSを今回この場で検討して、次回その内容を元に整理をしていくということなので、先ほど委員が言われたとおり、絞り込むというよりはWSの内容を咀嚼した上で、この専門家委員会としての見解を整理していくことでいいと思う。

○委員

7月の第7回専門家委員会の時間を長くやるのか、それとも1・2回やるのか、両方の意見が

あると思うがどうか。

- 委員 この段階で、2回に分けるかどうかだが、その通りにならない可能性が高い。2回に分けて進めることをイメージされて進めるというぐらいでいいと思う。
- 委員 他の委員はどうか。委員が言われるように2時間では難しい。4時間するのか2時間で2回に分けるか市にフィードバックしたいと思う。
- 委員 市民の方が100分のWSで方向性を出すのであれば、私たちが倍ぐらいでしなければいけないが、それは相当難しいことだと思う。WSの意見を再整理する位置づけであれば1回でいい。それをもとに作り込むのであれば2回は必要と思う。
- 委員 私も2回だと思う。
- 委員 市も臨機応変に考えるということで、今のところ、第7回専門家委員会は2回でどうか。
- 委員 今の話を伺い2回かなと思う。インターバルがあった方がいい。ぶち抜きで4時間より2回に分けた方が自分の中で整理しやすい。
- 委員 手順について、第7回専門家委員会は2回に分けて行程表を修正し、また送っていただければと思う。次の議題はWS。ファシリテーターもいるとのこと。資料も含めて議論したい。

■事務局 **資料2**説明

- 委員 ポイントがいくつかあった。まずはグルーピングだが、その前に何人集まれば、WSとして成立するのかという話。だから、参加人数をきちんと集めていただかなければならない。次に配布する資料。年配の方いるのでこれだけの資料を読むのは大変。議論してもらった資料と参考資料と分けるなど議論が必要。まず市に何人集めればWSが成り立つのか。
- 事務局 WSの参加者数の下限をここでお示しすることはできない。専門のファシリテーター、コンサルと議論し改めてお知らせしたい。委員から意見をいただくと参考になる。
- 委員 地域・年代別は議論しないといけない。現在の応募状況は。地域、年代はどうなっているか。
- 事務局 人数は現時点で10名、地域は旧市内という状況。
- 委員 その人数であればここで議論しなくても様子を見て調整すればいい。
- 委員 形式的には人数とグルーピング。例えば、跡地から何kmで分けるとか、年齢別についてはファシリテーターと市で方向性を示してもらえばいいが意見はあるか。
- 委員 プロのファシリテーターがいれば任せればいいと思う。
- 委員 形式はファシリテーターと市で意見集約しやすい方法で議論していただくということでいい。
- 委員 **資料2-1**P6番。「青色で頻度が少ない」と「活用策として必要ない」という意見に繋がらないか心配。「頻度が多いから必要」ということではない。青色で頻度を上げた理由は。この議論で必要な活用を議論できるのか。
- 委員 青い青色の部分とピンク色の部分の意図は。
- 事務局 最終的に必要と思われるものは、ピンク色の部分で最終的には示していただく。その前段としまして、青色の部分は、各個人がどのような活用をしているのか、また他の人の活用状況を整理したいと考えている。頻度の多い少ないを問う意図はない。
- 委員 関連性はないということか。
- 事務局 そういう意味での関連性はない。
- 委員 分かった。そうであるならば逆にこれをどう使うか。頻度よりも「なぜ必要なのか」書いてもらう方が我々も議論できる。
- 事務局 青色の部分が直接的に結果に結びつく場合もあるかも知れないが、班としてまとめていくときの一つの要素。
- 委員 青色の頻度と桃色の必要な活用で理論矛盾が出てくる。もう一度考えた方がいいか。
- 委員 例えば、教育・学習・芸術・文化機能のカルチャーセンターを「今、皆さんはどのようにお

使いか。」その中で「どういうところに不満、不足、問題点があると感じているか。」を出してもらおうと、それがそのまま次の「必要と思う跡地活用」を考える際に、不満、不足をどのような形で補うことができるかに結びつくと思う。おそらく堤委員が言われたのはそういう意味だと思う。そうすれば次のステップとして、公共でなければ提供できないサービスかどうかをスクリーニングにかけられる。つまり、民間でやれるなら民間に任せればいいし、公共が本当にやらなければならないことかどうかを市民の皆さんも考えることができる。そうすると公共がやらないといけないことの中で、どういったものを具体的に整備していくのか専門家委員会で議論もできる。市民のみなさんへの新たなアンケートの提示の仕方・整理もできると考える。これは堤委員も同じ発想ではないかと思う。

○委員 おっしゃるとおり。

○委員 同じようなことを思っていた。例えば、「活用したいけどないから活用できない」とか、「もっと活用しないけど何か不安があるからあんまり行かない」とかが間に入ると、必要と思う跡地活用について、必然的に「既存の施設が使えるのであれば、それを改良したら今の不安を解消するのであれば新しく改良を行う。」となる。そうすると繋がり切り離せないの間が欲しい。

○委員 みなさんどうか。

○委員 みなさんがおっしゃるとおり。

○委員 意見を集約すると青色の部分と桃色の部分の繋がりを明確にしてほしいということ。例えば「活用しない理由」、「近くにない」など、運用を考えて青色から桃色にもって行ってほしい。プロのファシリテーターの方と考えていただけたらと思う。

■事務局 青色と桃色に繋がりを持たせることができるように検討したいと思う。

○委員 WS の進め方はもう一度検討し直していただく。次に市民に提供する資料 2-2。財政、人口減少が書かれている。小冊子にまとめられているが、絞ってわかりやすくした方がいいとか議論していただければと思う。入れるもの、別冊にするもの、いらぬものの整理をしてはどうか。

○委員 情報はすべて資料 2-2 に入れた方がいいが、これ以上資料があっても読まない。フォントを統一すると整理できる。市が情報を出したいのも理解できるし、本来議論するとき情報を出すことは大前提。「鳥取市の将来」というタイトルだが「WS 資料」と書いてほしい。整理の流れも示した方が市民は分かりやすい。情報としてはいっぱいいっぱい。重複しているものはまとめるべき。

○委員 この資料を一般の市民がもらったとき、これでどう判断できるのだろうか。我々は普段からこういう資料を見慣れているし、数字が具体的に何を意味するか一定の理解があるのでそれほど違和感がなくいろんな意見を言うことは可能だ。一般の市民が判断を求められたときこの資料の作り方で果たしていいのかなと思っている。例えば、興味のある方はインターネットで、「跡地活用」、「市庁舎」等のキーワードで全国の他都市で同じような問題に直面したところが、どのような跡地活用をしているか検索すると思う。そうすると、具体的に民間で活用するとはこういうことなのか、複合的に活用するにはこんなやり方もあるのか等、様々なアイデアを知ることができる。私自身もそれをヒントに、もし鳥取市で防災をベースにいろんな機能を付加するのであれば、こんなやり方があるのではないかと想像力を働かせることができると思う。そういう意見を市民のみなさんには出していただきたい。我々専門家委員会がしなければいけないのは、それを実現する際の様々な制約条件、例えば鳥取市の財政状況を考えた際の実現可能性はどうか、クリアしなければならないハードルは何かなどを整理し、次回の市民アンケートの選択肢や何が鳥取市にとって最もふさわしいのかについて関心を持っていけるような立て付けを行う必要がある。しかし、今のところ市はそういう考え

方ではなさそうである。以前の委員会では他の地域での庁舎等の跡地活用事例という資料が提示されすぎて参考・勉強になった。こういう資料も附属資料としてみなさんご覧になって、参加していただくのがいいのかなと思う。本編の資料としては、さすがにこれ以上つけるのは厳しいので、そういう資料を提供してもらえると市民のみなさんにとっては、より意見が言いやすいのかなということをつけ加えたいと思う。

**○委員** カラフルでよくできている。インターネットで調べ方は、いろいろ情報お持ちだと思うが、これを初めて見た人に財政規模 1000 億円弱と言われてもピンとこない。参考事例をあげるのであれば、この施設にいくらかかったが必要。一般の方が見た時にびんとくる数字のイメージがしないと思うので、活用策を参考であげるのであれば、かかった費用があればわかりやすいと思う。資料はよくできている。

**○委員** **資料 2-2**P4 の下から 3 つ目「歴史・文化ゾーンにふさわしい利用については、市民アンケートで多くなかったため、その利用に限定しない」とある。違和感がありいらなかった。アンケートの 5 項目の中で最下位だったので外されるとのこと。住民意見は重要だが、都市計画で市としてそういうところにしていこうということなので矛盾する。まちづくりは、歴史、文化、風土、風格とかが非常に重要だと思う。庁舎はなくなるが、その前の歴史も当然ある。この周辺に住んでいる方は、それを引き継いでこられている方もおられる。跡地には薬研堀もあったし雰囲気も残っている。そのエリアの歴史も含めた経緯も WS に参加する方に説明し、単に鳥取市の中心地が空いたということではなく、経緯も伝えられるといいと思う。

**○委員** 資料のボリュームはこれぐらいでいいという話。資料で何を伝えたいか明確にした方がいい。資料にストーリー性を持たせて見ていただいた方がいい。資料で最初に旧本庁舎の概要、その次に財政があって、その次に本題に入る流れでいいのか。まず本題を出して、その次に財政・人口・土地の規制を出すのか、皆さんの意見を参考にまとめていただいて、もう一度、練り直していただいたらいいかなと思う。

**■事務局** ものすごく参考になる意見をいただいた。気付かないところがたくさんあった。いただいた意見を反映させていきたいと思う。

**○委員** **資料 2-2**P4 が、これまでの議論、それぞれの活用策に関しての現時点での専門家委員会で話し合われた中で評価軸だと思う。それを WS の中で市民に伝えた上で考えていただくと、前半の部分で土壌をうまく作っていただけるといいのではないかなと思う。市民の方の属性がわからないところもあるので、この資料を一通り説明して考えましようと言われても、情報を咀嚼するのに時間がかかってしまうと思うので前半の説明の導入の部分で工夫してほしい。

**○委員** WS を始める前にファシリテーターの方に、鳥取市の状況をよく理解していただかないといけない。どこにどういう施設があり、どういう意見があってということをファシリテーターに理解していただき、それを WS の方に的確に伝えていただく。資料について、フォント・絵を使うなど工夫して、年配の方にもよく理解できるように考えてほしい。

**○委員** なぜ議論をするのかの説明とこれまでの経緯、どういう進め方で決めていくのかがあるといいと思う。

**○委員** WS の仕方で、青色と桃色の繋がりを明確にさせていただく。**資料 2-2** をもう少しわかりやすく絞り込んで見直していただきたい。ファシリテーターの方にも十分、状況を理解していただいて、例えば横に病院があるのにまた病院という話もないし、そういうことも考えて進めていただきたいと思う。

**○委員** WS の参加が現時点で 10 名ということで、成立要件についてはコンサルの方と検討いただくということである。この WS の位置付けとし、この WS を通じて得られた情報を元に専門家委員会で整理していくための材料を集めるために WS を開催するということなのか、もしくは市民参加の意識を高めていく意味で開催していくものなのかによって、母集団の取り方とか、

参加してもらう方の属性の設計が結構変わってくると思う。今は不特定多数、無作為に募集して10名と理解しているが、場合によって個別に声をかけて集めていく等の作戦がもしあれば聞きたい。

**■事務局** WSについては、現時点で、不特定多数、すべての市民の皆様以案内をしているところ。今のところ、個別での声かけという考えは、鳥取市として持ち合わせていない。あくまで、広く市民の方々から意見をいただきたいということで、現時点では不特定多数としている。募集は5月31日まで。引き続き、周知、PRに努めて参りたいと考えている。

**○委員** WSは市役所と福祉文化会館で合併した町村ではやっていない。WSだから集まって対面でやるのが基本だがZOOMはどうか。

**○委員** 講義ではブレイクアールームという機能を使ってやっている。参加者を少人数に分け、それぞれで議論してもらい、結果を報告してもらうやり方ができるが、ある程度ホストが慣れてないと大変である。やってやれないことはない。例えば、高校生、大学生の意見を聞きたいとか、比較的ITに慣れている方に対して呼びかけをして、参加できる方はぜひ参加してみてくださいという形はあってもいいかもしれない。参加者が3日間で10人とあった。1回が数人の可能性がある。人を増やす方法ないしは違う機会を作っていくことも必要。多くの市民のみなさんの意見を聞く市役所の姿勢をいろんな形で出していくことが、合意形成においてはすごく大事なことになるので、またぜひ検討いただければと思う。

**○委員** 市のWSの目的が市民から広く意見を聞くであった。当然、目的を明確化してやるということ。もし目的が広く意見を集めることであれば、現状の3ヶ所で10名ではその目的を果たせないのは明らかなので考え直した方がいいと思う。その目的を果たせるような方法にどこかで切り替える必要がある。

**○委員** 委員が専門家委員会にZOOMで参加し意見されている。WSは、集まってやった方がいいか。それとも少人数であれば他の方法を考えた方がいいか。

**○委員** ZOOMだとやり方を考えた方がいい。コロナの状況なので何らかの手段、工夫はしてもいい。できるだけ多くの人に意見をしっかり聞くということに合わせて作戦を考えた方がいい。サイレントマジョリティ、意見はあるが言わない人もいる。それをどう拾うかが重要。

**○委員** 参加者を増やす工夫いるのかなと思って聞いていた。普通でやるにしても、一人一人10人を入れなくても3人ぐらいで集まってもらう。例えば、うちに5人ぐらい来てもらって、そこでグループワークして繋がったら、そこで小さなグループができるのもいいのかなと思って聞いていた。

**○委員** ITを使う工夫が必要。人が集まらない場合、市はどう考えるのか。

**■事務局** 市も参加者を増やすことを考えたいと思う。ただ、個別に特定のところに声をかけるということが、バイアスがかかることもあると思うので、そこはなるべく広くというか、どういった方法でどうするのか考えたいと思う。すでに10人の応募をいただいているので、中止は不適切だと思う。実施はするが、例えば3会場1つに集約する、参加者を増やす努力をさせていただきたい。そして人数が思ったほど多くないとなれば、別の方法も考えたい。最終的には市民アンケートで何うことを次の段階では考えている。そういったことで、多くの方の意見は何うこともあると思うが、再検討させていただきたい。

**○委員** 宿題がいくつか出たので、資料作成をお願いします。

**■事務局** 次回の開催日程について。第7回は1回なのか2回なのか時間はどうかと意見をいただいた。一度整理し、改めて日程調整をさせていただきたいと思う。

**○委員** 全体を通し意見、質問はあるか。

**○委員** 提案。次回の委員会を2回に分ける話もありながらである。委員が言われたが、WSの意見は咀嚼して整理することが必要。この専門家委員会では、せっかく忙しい先生方が集まってい

るので、専門家委員会としての活用策について、アイデア、案、シナリオを次回の委員会までに、みなさんからいただいて、まとめていくのはどうか。提案であるがいかがか。

**○委員** 専門家委員会の位置付け、運用の提案があったがいかがか。

**■事務局** みなさんからの意見が何えればそれに越したことはない。もちろんそれは市民の方の意見が参考でとしてバックにありながらということになると思うが、ありがたい意見である。

**○委員** 今の委員の考えでよいか。

**○委員** 今、委員のおっしゃられたのは、我々も何らかのアイデアをそれぞれ持ち寄ってもいいのではないかという指摘。それには賛成。いろんな選択肢が増えることは良いこと。

**○委員** 一応、我々の意見というのはあることはある。市民の意見に立った上での意見ということ。民間を活用するかどうかは次の段階。今回は活用方法で意見を聞く。そのあとの運用については次回以降取りまとめましょうということ。

**■事務局** 少し日程について補足をさせていただきたい。**資料1**で、7月頃、第7回専門家委員会。委員会は2回程度必要ではないかという意見もいただいている。7月ごろ第1回目は、7月上旬には開催できるように努力したい。本日はありがとうございました。次回委員会もどうぞよろしくお願ひしたい。